

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ラベンダー)

事業所番号	0190400671		
法人名	医療法人北武会		
事業所名	グループホームほくとⅡ「ラベンダー」		
所在地	札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2番5号		
自己評価作成日	R3年9月	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0190400671-00&ServiceCd=320](https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400671-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	R3年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの近くには保育園や学校等があり、外に出て少し歩けば子供たちの楽しげな声や元気に遊ぶ姿を目にすることが出来ます。地域の清掃活動や夏祭りの行事、地域住民を招いての「転ばん塾」の開催など様々な活動に参加したり、参加して頂いたりしていましたが、コロナ禍の為、現在は行われておりません。状況が落ち着いたら再開し、一層地域住民の方たちとの交流を深めて行きたいと考えております。

当事業所は、札幌市手稲区の市街地に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内で、3階建ての1階と2階にある3ユニットのグループホームである。国道5号線沿いで、近隣にコンビニや飲食店があり利便性のよい地区である。建物内は、病院転用型で3階にも同法人の2ユニットのグループホームがあり、2階には渡り廊下で特別養護老人ホームが併設している。1階には多目的スペースがあり、介護予防センターなど地域の活動に開放している。ホーム内は、リビングや食堂、廊下、居室、職員休憩室など全て広くゆったりしている。法人は、医療法人だが社会福祉法人などを含めて幅広い業容展開をしている法人グループで、病院や老健施設、特養老人ホームも5カ所運営しており、地域への貢献度が高い。利用者は広いリビングの大きな窓から手稲の街並みを一望しながら、ゆったりと寛いで毎日を過ごしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策の為、面会の制限や外出の自粛をしているが、今後は少しずつ従来通りに再開していく予定だ。認知症高齢者の支援施設としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につきやすいところに掲示している。毎日ではないが、毎月のミーティングにおいて始まる前に唱和し、管理者と職員間で確認しあっている。	事業所の理念は、事業所内に掲示しパンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎月ミーティングで理念の唱和をして、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響もあり、定期的な町内会の清掃行事等も状況に応じて参加しているが、回数は少なくなっている。	町内会に加入し、行事の清掃活動などに参加しているが、コロナ禍で参加が減っている。いつもは、施設内の多目的スペースを地域に開放しているが、現在は休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は自粛状態となっているが、地域の方々の相談や支援には出来るだけ親身に対応できるようにと考えている。現在の状況が落ち着けば会議などを通じて、理解や支援方法を地域住民の方たちに発信していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	現在の状況から書面会議が続いている。施設内の状況や取り組み等の報告を行い、意見や助言等を頂いており、次回の会議ではそれをもとに取り組み状況を報告し、サービス向上に向けている。	運営推進会議は、家族や町内会役員、民生委員や地域包括支援センター担当者が参加して定期的に開催していたが、コロナウイルス感染症対策の為、現在は、書面会議で行い、参加者から意見を頂いて運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、グループホーム協議会や手稲区の会議は行われておらず参加出来ない状況だが、事業者間でFAX等でコロナ対応についての問い合わせを行い、協力関係を保っている。	コロナウイルス感染症対策で、グループホーム協議会や区の会議は休会しているが、地域包括支援センター担当者とは運営推進会議で定期的に情報交換があり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修は施設内に於いて定期的に行っている。外部研修に参加出来ない中、具体的な例を挙げどのような行為が身体拘束にあたるのか、日常身近なところで基本的な研修を行っている。新しく入職する職員については、オリエンテーションを行う際に資料を渡し、説明を行っている。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備して、定期的に研修会を開催しており、また身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1回検討会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういった行為が虐待行為になるのか、身体拘束と合わせて行っている。時間が経過すると忘れがちになる為、基本的な行為を事例を通して繰り返し学ぶ機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用している方はいませんが、他のユニットでは実際に活用されている方がいらっしゃるの、具体的な内容に関しては情報を得る機会は十分にあり、現在は特に研修などの機会は設けていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、今後特に施設、家族間に於いて重要な部分は特に丁寧に説明し理解のうえ了承を得るようにしている。又、施設として出来る事と出来ない事を明確にしている。改定時には、理解と納得を頂けるように説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置している。苦情があった場合は会議を開催し、苦情となった原因を話し合い改善に向けての話し合いを行っている。その後、話し合いの結果を掲示板に掲示している。	ホーム全体と利用者毎のホーム便りを毎月発行し、家族へ運営状況や生活状況を報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は来訪時や電話で直接聞き、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あらゆる機会、例えば月一度のユニット会議や朝夕の申し送り時、個別面談や人事考課の面談などを利用し、意見や要望を聞く機会を設け可能な限り運営に反映させている。	ユニット会議が月1回開催し、管理者会議が週1回開催しており、個人面談は、年3回定期的に行って、職員からの意見や提案を運営に反映している。	職員からの意見や提案は聞く機会は設けているが、コロナ禍で外部研修会に参加できない為、事業所内で受講できるようオンライン研修会の受講設備一式の導入を至急検討することに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	派遣社員から直雇用社員への登用の推進、処遇改善加算の活用、働く職員の意欲が持てるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修や外部研修、現在に於いてはコロナ禍の為、数少ない機会をみでの外部研修参加となっているが資格取得希望者へのキャリアアップ支援を行い、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	手稲区のグループホーム管理者会議への参加を行ったり、見学会などの活動を行っていたがコロナ禍の為、現在は行えずにいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やそのご家族に安心して頂けるよう十分に説明を行い、不明な点や疑問点がないかを確認している。又、面会時や利用料金のお支払いの際などを利用し、何気ない会話から不安や要望を拾い上げ把握する努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談を傾聴しながら、今後の生活に於ける要望等を確認し、本人も交えながら共に希望する生活を目指す関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族の意向、アセスメントを擦り合わせて、今現在必要とされている支援を提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならない程度の手伝いについては、職員にも積極的に参加して頂けるような声掛けや誘導を行うように指導している。一方的な関係にならないよう、共に生活する者同士としてのコミュニケーションや信頼関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお支払いの際など直接顔を合わせたり、電話などでの会話の中での情報交換を行っている。又、ご家族には毎月写真入りのラベンダー便りを郵送し、関係が疎遠になることのないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に出向くことや地域の方を招いての行事の実施予定をしていたが、コロナ禍の為実現出来ず。	いつもは、地元出身の利用者が多い為、来訪者も多いが、コロナウイルス感染症対策の為、面談の自粛をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の特性を十分に把握すると共に、利用者間の関係性に配慮し、孤立しないよう、又、トラブルにならないよう職員が間に入るなどしてお互いが良好な関係性を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ内の他の施設に移られた場合は面会に行ったり、様子を電話などで聞いたりもするが、状態変化に依り他施設に移られた場合は連絡等を取っていないのが現状である。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の介護職員からのアセスメント報告を聞いたり、日々の関わりの中で言葉や表情などからその方の思いを把握するように努めている。又、職員間でのそういった情報共有も積極的に図るようにしている。	意思表示のできる利用者は半数ほどいるが、困難な方には、関わりの中での言葉や表情などから把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査時、ご本人若しくはご家族等から情報を聞き取るようにしている。入居後については本人の何気ない会話の中からや、開放的な気分になれる入浴時などにこれまでの生活や習慣・拘り等について何うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りなどで本人の状態把握に努めている。新しく得た情報に関しては随時アセスメントシートに追記している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時にモニタリングを行い、職員の意見も取り入れた介護計画を作成するように努力している。	利用者毎の担当者が本人や家族からの意見や要望を聞き、主治医や看護師等を含め情報収集し、定期的にカンファレンスでモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族にも見て頂けるような介護記録を書くことに重点を置いている。又、出来ないことばかりに目が行きがちだが、長所や出来ることにも目を向けた具体的な情報を載せた介護記録を書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や日常的な買い物等の支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られた地域資源ではあるが、活用出来る資源(ボランティア・慰問・訪問理美容など)については出来得る限り活用するようにしている。コロナ禍以前は手稲区少年消防団の団員達が慰問に来たり、正月には年賀状を送り合っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方は入居時に訪問医療(内科)の説明を行い、個別に契約して頂き、月に2回の往診を受けられている。他科受診に関しては原則ご家族付き添いとなっているが、事情に依っては職員の付き添いとなる場合もあるが適切な医療を受けられている。	協力医療機関の往診は月2回で、看護師が職員で常駐しており、医療関係は全て対応しており、24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援している。歯科医や皮膚科医も往診がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の異常に気づいたら管理者若しくは看護師に報告するように徹底している。報告を受けた管理者や看護師の判断で、主治医に報告指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に速やかに提供している。主治医、入院先の担当医、医療相談員、ご家族との連携を密に図り、情報交換を行い、回復状況を見ながら退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合や終末期になった場合の当施設に於ける方針を説明している。本人及びご家族の希望も踏まえ、よりよい方法を話し合っている。	重度化や終末期については、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医の指示のもと家族と打ち合わせして、意向を確認し、主治医と連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中や夜間帯に於ける緊急時対応マニュアルを分かりやすく作成し、見やすい場所にファイリング及び掲示してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署などの協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。災害が起きた場合には近隣住民の協力を仰ぐと共に避難場所の提供も行う予定となっている。	避難訓練は、消防署立会いの下、地域の協力により、備蓄や備品を整備して、年2回定期的に行っており、災害時は、地域の避難場所にもなっている。	地域の協力により避難訓練や災害対策を行っているが、災害時の事業継続の計画書(BCP)の作成を早めに期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性や人格、プライドやプライバシーの尊重を重視した声掛け、介助、介護の支援を行っている。	人格の尊重やプライバシーについては、ユニット内で接遇に関しての勉強会をして学んでおり、声掛けや言葉使いなど注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に入居者様の言動の中から本人の思いを察知し、職員全体で情報を交換・共有する。自分で自己決定出来るような配慮を持った問いかけを行ったり、職員が思い込んだ内容の決定に導くことのないように常に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な一日の流れはあるが一人、一人の体調や状態、思いに配慮しながら、家庭的な雰囲気での生活作りをしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の衣服はご自分で決めて頂き、一日の中で着替えを行ってもその行為を否定しない。季節の変わり目は早めに衣替えを行い、季節にあった清潔な衣服で生活して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍以前は小さいながら家庭菜園をやっており、その収穫物を入居者様に食事の際提供する事もあった。昨今の事情ではそれも叶わず、現在は職員と共に行事の際の食事の下ごしらえや簡単な配膳、食器洗いなどを行っている。	食事は、副菜が外部委託で、ご飯と味噌汁を用意している。利用者は料理の下準備や配膳、食器洗いなど手伝っている。コロナ禍で外食は出来ないが、出前の釜飯や焼き肉パーティー、ピザなど楽しみな食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、個々の体調や状態を把握・管理している。又、入居者様の状態に合わせた調理法や形態での提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、その方の能力に応じた介助を職員が行っている。就寝前には義歯を外して頂き、義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、時間や習慣に応じた声掛けや誘導をお行っている。	利用者毎の記録簿から排泄パターンを把握し、表情や仕草などから声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取は制限のない方にはなるべく多く摂って頂く様に声掛けを行い、乳製品を取り入れたり、毎日の体操や廊下を歩行するなどの運動を継続し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居者様の全身状態や意向を重視し、無理強いせず、希望に沿った入浴を支援している。	入浴は週2回で、利用者の体調に合わせて行っている。利用者が希望する曜日や時間など個別の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠状態を把握・観察して、状態により主治医と相談して入眠導入剤を処方して貰い、良眠を得られる様支援している。又、日中の活動量にも注目し、生活のリズムを整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は職員がいつでも手に取り確認出来る場所に置いてある。服薬時には服薬マニュアルに沿って誤薬のない服薬を行うよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や誕生日会などへの参加、運動や体操・カラオケなど本人の気分・状態に合わせ過ごせる様支援している。家事が出来る方にはその方なりの役割を持って頂き、生活にメリハリが付く様に心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、日常的な外出支援は出来ない。	従来は近隣の公園への散歩やコンビニでの買い物など日常的に外出支援していたが、現在はコロナウイルス感染症対策の為、外出を自粛している。	北海道の緊急事態宣言も解除されたので、今後は状況を見ながら、家族とも打ち合わせして、外出行事の企画を検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金の所持に関しては施設側として管理出来ない為、小銭程度は持っておられる方もいらっしゃるが、基本的には本人は所持していない。必要なものに関しては預り金の名目でご家族から預かっている中から購入し月末に明細書の送付を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の中には自ら携帯電話を所持され、使用出来る方もおられる為、ご家族との連絡に使われたり、又、ご家族から電話や手紙が来たりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節やその月の誕生者に向けての飾りつけを行い、又、入居者様が不快と感じるような音や光を避け、過ごしやすい温度の調整や換気を心掛けている。	共用空間は、リビングや食堂、廊下も広くゆったりしている。台所は対面キッチンで、台所から利用者が見守れる。ホーム内は整理整頓され、清潔で温度管理もされており、壁には季節の飾り物などが掲示されている。リビングの窓が大きく採光が良く居心地の良い場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを配置し、気の合った利用者様同士が会話を楽しまれたり、テレビを観たり、時にはゲームを楽しまれたりして過ごされている。一人になりたい方には皆と少し離れた席も用意し、居室にて過ごされる方も思い思いの時間を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時のご家族とお話の中で、新しいものを用意されるのではなく、馴染みの家具や使い慣れた品をご持参頂くようお願いし、少しでも早く安心して、新しい環境に馴染んで頂ける様工夫している。	居室は10畳程の広めで、収納クローゼットとベットが設置している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には基本的には危険な物品は置かない、又、廊下には手摺が設置されており、バリアフリーにもなっていてトイレには分かりやすい表示も掲げている。排泄や入浴等、残存能力を活かした安全な生活を送れる様工夫し支援している。		